

2024年度（令和6年度） 町田市立南中学校 社会科 3年 年間指導計画及び評価基準

使用教科書：中学社会 公民 とともに生きる（教育出版） 社会科 中学生の歴史 日本の歩みと世界の動き（帝国書院） 年間授業時数：140時間

月	単元・章・教材名	時数	学習目標	学習活動	評価規準
4	"第5章 近代(後半) 二度の世界大戦と日本	20	<p>① 第一次世界大戦の背景とその影響、民族運動の高まりと国際協調の動き、我が国の国民の政治的自覚の高まりと文化の大衆化などを基に、第一次世界大戦前後の国際情勢及び我が国の動きと、大戦後に国際平和への努力がなされたことを理解させる。</p> <p>② 経済的世界的な混乱と社会問題の発生、昭和初期から第二次世界大戦の終結までの我が国の政治・外交の動き、中国などアジア諸国との関係、欧米諸国の動き、戦時下の国民の生活などを基に、軍部の台頭から戦争までの経過と、大戦が人類全体に惨禍を及ぼしたことを理解させる。</p> <p>③ 戦争に向かう時期の社会や生活の変化、世界の動きと我が国との関連などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、近代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現させる。近代後半の日本と世界を大観して、時代の特色を多面的・多角的に考察し表現させる。</p>	<p>○第一次世界大戦の勃発により、日本は日英同盟を利用してどのような行動がとれるのか、また、日英同盟を結んでいたイギリスが、日本のどのような行動を警戒していたのかを予想させる。</p> <p>○民族運動の高まりや国際平和への努力に気づかせるとともに、どのような限界があったかについても考えさせる。</p> <p>○資料をもとに、国際連盟の常任理事国になった日本が、国際的な場で初めて人種差別撤廃を提案したことに気づかせる。</p> <p>○年表中に示されているワシントン会議やロンドン海軍軍縮会議の結果を見て、国際協調が進められる一方で、海軍力においてイギリスやアメリカが優位な秩序が決められたことに気づかせる。</p> <p>○単元のまとめを行わせる。</p>	<p>①第一次世界大戦の背景とその影響、民族運動の高まりと国際協調の動き、我が国の国民の政治的自覚の高まりと文化の大衆化などを基に、第一次世界大戦前後の国際情勢及び我が国の動きと、大戦後に国際平和への努力がなされたことを理解している。</p> <p>②経済的世界的な混乱と社会問題の発生、昭和初期から第二次世界大戦の終結までの我が国の政治・外交の動き、中国などアジア諸国との関係、欧米諸国の動き、戦時下の国民の生活などを基に、軍部の台頭から戦争までの経過と、大戦が人類全体に惨禍を及ぼしたことを理解している。</p> <p>③戦争に向かう時期の社会や生活の変化、世界の動きと我が国との関連などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、近代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。</p> <p>④近代後半の日本と世界を大観して、時代の特色を多面的・多角的に考察し、表現している。</p> <p>⑤近代後半の日本と世界について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。</p>
6	"第6章 現代 現在に続く日本と世界	20	<p>① 冷戦、我が国の民主化と再建の過程、国際社会への復帰などを基に、第二次世界大戦後の諸改革の特色や世界の動きの中で新しい日本の建設が進められたことを理解させる。</p> <p>② 高度経済成長、国際社会との関わり、冷戦の終結などを基に、我が国の経済や科学技術の発展によって国民の生活が向上し、国際社会において我が国の役割が大きくなってきたことを理解させる。</p> <p>③ 諸改革の展開と国際社会の変化、政治の展開と国民生活の変化などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、現代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現させる。</p>	<p>○日本が独立を回復して国際連合に加盟し、国際社会に復帰するまでの経緯を理解している。</p> <p>○日本の産業・経済や科学技術の著しい発展とそれとともなう生活の向上や、それらを背景とする世界有数の経済大国への急速な成長、および石油危機が政治や経済に及ぼした影響などに気づかせる。</p> <p>○沖縄返還、日中国交正常化などを取りあげ、東アジアとの新たな関係や当時の国際情勢について理解させる。</p> <p>○単元のまとめを行わせる。</p>	<p>①冷戦、我が国の民主化と再建の過程、国際社会への復帰などを基に、第二次世界大戦後の諸改革の特色や世界の動きの中で新しい日本の建設が進められたことを理解している。</p> <p>②高度経済成長、国際社会との関わり、冷戦の終結などを基に、我が国の経済や科学技術の発展によって国民の生活が向上し、国際社会において我が国の役割が大きくなってきたことを理解している。</p> <p>③諸改革の展開と国際社会の変化、政治の展開と国民生活の変化などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、現代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。</p> <p>④現代の日本と世界について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。</p>
9	第1章 私たちの暮らしと現代社会	10	<p>① 日本国憲法の平和主義に関する理解を深め、我が国の国際貢献のあり方について考えるとともに、世界平和を確立するための熱意と協力の態度を育てる。</p>	<p>SDGs（持続可能な開発目標）の達成に向け、先進国も発展途上国も取り組むべきことについて調べまとめ、経済的発展だけでなく、人間的発展に向けた開発を旨とすることが重要であることを理解させる。</p>	<p>②社会的な思考・判断・表現 社会的な見方・考え方を働かせ、私たちがよりよい社会を築いていくために解決すべき課題を多面的・多角的に考察、構想し、表現している。</p> <p>③主体的に学習に取り組む態度</p>

			② 持続可能な社会を形成するという観点から、わたしたちがよりよい社会を築いていくために解決すべき課題を探求し、自分の考えをまとめることができる。	持続可能性を妨げる主な課題について、グローバルとローカルの両面から調べまとめ、SDGsとのつながりや関係を理解させる。(ICT)	私たちがよりよい社会を築いていくために解決すべき課題について、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとしている。
10	第2章 個人を尊重する日本国憲法	15	① 憲法を学ぶにあたり、その根底にある個人の尊重という考え方の大切さに気づく。 ② 憲法とは何か、なぜ憲法を学ぶ必要があるのかについて興味・関心をもつ。	日本国憲法で新たに保障されるようになった権利について、大日本帝国憲法と比較しながら調べまとめさせる。 国民主権、象徴天皇制、憲法改正の手続きの具体的な内容について、掲載された各資料を基に調べまとめ、理解させる。	①知識・技能 日本国憲法が、個人の尊重という価値観を基礎に成り立っていることを理解している。 ②社会的な思考・判断・表現 個人を尊重するという考えについて、日常の具体的なできごとと関連付けて考察し、表現している。 ③主体的に学習に取り組む態度 個人の尊重と法の支配の重要性に着目し、自分の生活と関連付けて憲法を学ぶ意味を自らに問い、理解しようとしている。
11	第3章 私たちの暮らしと民主政治	15	① 議会の傍聴を通して、身近な暮らしと政治との関わりについて考える。 ② 民主主義という考え方のもつ意義や特徴を理解し、身近な暮らしの中で果たしている役割に気づく。	独裁政治との対比を通して、民主主義の意義を理解し、議会制民主主義(代議制)のしくみや多数決の原理について調べまとめさせる。 投票率の低下や一票の価値の格差など、日本における選挙の課題について調べまとめ、選挙権の拡大やインターネット選挙運動の広がりについて理解している。(ICT)	①知識・技能 身近な地域の課題を解決する役割を担う人々について調べることを通して、民主主義の考え方について理解している。 ②社会的な思考・判断・表現 議会の傍聴や視聴などを通して、身近な暮らしと民主主義を関連付けて考察している。 ③主体的に学習に取り組む態度 議会の傍聴や視聴をきっかけに、自分の生活と関連付けて、民主主義の考え方や民主政治の意味について問い、考察しようとしている。
12	第4章 私たちの暮らしと経済	15	① 経済社会における「分業」のもつ意味について、具体例をもとに考える。 ② ものを交換することの意義や、その際に貨幣果たす役割に気づき、身近な暮らしと経済活動とのつながりへの関心を高める。	株式会社のしくみと特徴について、株式会社と株主の関係を踏まえながら理解し、企業の社会的責任について、具体的事例を基に調べまとめている。(ICT) 働くことの目的や、労働条件の内容について資料から調べ、働く人たちの権利がどのような法律や制度によって守られているかを理解している。	①知識・技能 分業をすることが生産性の向上をもたらすこと、貨幣を通じて生産物を交換していることを理解し、経済活動は一人一人が関わり合って成立していることに気づく。 ②社会的な思考・判断・表現 生産物の交換に貨幣が使われることの意義や効率性について、物々交換との比較で考察し、説明している。 ③主体的に学習に取り組む態度 身近な生活の中で経済活動がどのような意味をもつのかについて、「分業と交換」という視点から、主体的に学習していく見通しをもっている。
12	第5章 私たちの暮らしと経済	15	① 生まれてからこれまでの私たちの15年間の暮らしは、どのように営まれてきたのかを理解する。	日本の総人口と年齢層の推移などの資料から日本の社会保障制度の課題を具体的にまとめ、介護保険や年金保険などの給付と負担の関係について理解させる。	①知識・技能 「出産・育児」「保育・教育」「医療」の視点から、中学校3年生にいたるまでに平均的に使われている費用を理解し、まとめている。

			② 公害の防止など環境の保全についての問題、グローバル化する国際社会における日本、地域経済の活性化など、今後の日本経済が直面する課題をとらえる。	出典を正しく示したグラフやデータで、比較や推移を適切に表現しながら、自分が設定した社会保障に関するテーマでレポートをまとめ、その内容を理解している。(ICT)	②社会的な思考・判断・表現 これまでの15年間で自分が受けてきた公的な支援を踏まえながら、これからの人生においてどのような支援を受けるかを考察し、自分の言葉で表現している。 ③主体的に学習に取り組む態度 私たちが安心して豊かに暮らしていくために必要なことはどのようなことか、「希少性」(資源の分配のあり方)の観点をもって、主体的に学習していく見通しをもっている。
1	第6章 国際社会に生きる私たち	15	① 世界平和の実現と人類の福祉の増大のためには、各国が相互の主権を尊重し、各国民が協力し合うことが大切であることを理解する。 ③ 国際協調のために、国際連合をはじめとする国際機構などが果たす役割や取り組みが大切であることをふまえ、国際社会における我が国の役割について考える。 ③ アジアを中心とした日本の国際貢献について、技術協力や経済援助の視点からとらえ、今後も他国から期待される活動のあり方を考える。 ④ NGOによる国際支援活動の具体例を通して、民間でもできる国際支援の方法や特徴について考える。	国際連合誕生の経緯や目的、しくみ、はたらき等について調べまとめ、国際社会における国際連合の役割を理解している。 EU, ASEAN, APEC, TPPなどの目的やしくみ、概要等について調べまとめ、地域統合(地域主義)や国際社会における結びつきの意義を理解している。 様々な資料を基に、日本が世界の一員として国際貢献を進めてきた経緯や事業内容について調べまとめ、国際貢献の意義や国際支援のあり方について理解している。	①知識・技能 国際社会において、領土(領海、領空を含む。)、国家主権、国際連合の働きなどの基本的な事項を中心に、国際協調の観点から国家間の相互の主権の尊重と協力、各国民の相互理解と協力及び国際連合をはじめとする国際機構などの役割が大切であることを理解している。 ②社会的な思考・判断・表現 対立と合意、効率と公正、協調、持続可能性などに着目して、日本国憲法の平和主義を基に、我が国の安全と防衛、国際貢献を含む国際社会における我が国の果たすべき役割について多面的・多角的に考察、構想し、表現している。 ③主体的に学習に取り組む態度 国際社会の平和と秩序を維持していくために、国際機構が果たす役割の大切さや、よりよい社会を築いていくために、国や企業、民間団体や個人でもできる国際支援の在り方などについて、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとしている。
2	終章 私たちが未来の社会を築く	15	① 日本国憲法の平和主義に関する理解を深め、我が国の国際貢献のあり方について考えるとともに、世界平和を確立するための熱意と協力の態度を育てる。 ② 持続可能な社会を形成するという観点から、わたしたちがよりよい社会を築いていくために解決すべき課題を探求し、自分の考えをまとめることができる。	SDGs(持続可能な開発目標)の達成に向け、先進国も発展途上国も取り組むべきことについて調べまとめ、経済的発展だけでなく、人間的発展に向けた開発を旨ざすことが重要であることを理解している。 持続可能性を妨げる主な課題について、グローバルとローカルの両面から調べまとめ、SDGsとのつながりや関係を理解している。	②社会的な思考・判断・表現 社会的な見方・考え方を働かせ、私たちがよりよい社会を築いていくために解決すべき課題を多面的・多角的に考察、構想し、表現している。 ③主体的に学習に取り組む態度 私たちがよりよい社会を築いていくために解決すべき課題について、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとしている。

※ 授業ではICTを用いた資料提示、スライドによる説明を行う。